七条中学校だより１１月２号

京都市立七条中学校
令和8年１１月4日
発行：校長 林 秀雄

家庭学習と定期テストに向けて３ 授業の雰囲気が学力を伸ばす

定期テストまで2週間となりました。これまで学校だよりでは、家庭学習の大切さや計画的な学習の進め方、定期テストに向けた準備について取り上げてきました。皆さんの学習は順調に進んでいるでしょうか。進路懇談や教育相談を通して、自分の目標を見つめ直し、気持ちを切り替えて頑張ろうとしている人も多いことと思います。

さて、学習を進める上で大切なのは、自分一人の努力だけではありません。各クラスや各授業の雰囲気はどうでしょうか。七中祭などの行事を通して育まれた人間関係や信頼関係は、その後のクラスや授業の中に生かされているでしょうか。よく「良い雰囲気のクラス」「良い授業」と言いますが、では具体的にどのような状態をいうのでしょうか。例えば、次のような姿が見られるクラスでは、学び合いが生まれ、一人ひとりの力が伸びやすくなります。

□授業の始まりに素早く準備をし、落ち着いて授業を始められる。
□先生や仲間の話を最後までしっかり聞くことができる。
□発表した人に拍手やうなずきなどの反応がある。
□間違いを笑わず、「なるほど」「そういう考えもあるね」と受け止められる。
□分からないことを「分かりません」「教えてください」と言いやすい。
□分かる人が友達に教えたり、一緒に考えたりしている。
□ペア活動やグループ活動で、一人だけが話すのではなく全員が意見を出している。
□自分と違う意見にも耳を傾け、より良い考えをつくろうとしている。
□私語や無関係な話で、誰かの学習を邪魔しない。
□提出物や課題に真剣に取り組む生徒が多い。
□「頑張ろう」「一緒にやろう」と声を掛け合える。
□テスト前になると、学習の話題が自然と増える。
□チャイム着席ができ、授業開始と同時に学習モードへ切り替えられる。
□ノートやタブレットを活用し、自分なりに工夫して学習している。
□分からないことをそのままにせず、質問する姿が見られる。
□仲間が発表した考えに対して、質問や意見を返すことができる。
□グループ活動で役割を押し付けず、協力して取り組める。
□授業に必要な持ち物を忘れず準備できている。
□学習と関係のない話をする人がいたとき、互いに注意し合える。
□テスト前だけでなく、普段から授業を大切にしている。
□「分かった」「できた」という喜びを仲間と共有できる。
□仲間の成功や頑張りを認め、応援することができる。
□教室全体に「みんなで頑張ろう」という前向きな空気がある。

どうでしょうか。皆さんのクラスや授業には、これらの姿がどれくらい見られるでしょうか。

実は、学力が伸びるクラスには共通点があります。それは、勉強が得意な人だけが頑張っているクラスではなく、誰もが安心して学べるクラスであるということです。分からないことを分からないと言える、失敗を恐れず発言できる、仲間の挑戦を応援できる、そのような雰囲気が学びを支えています。逆に、人の発言を笑ったり、授業の妨げになる行動があったりすると、教室全体の学習意欲は下がってしまいます。一人の行動は小さなものかもしれませんが、その積み重ねがクラスの雰囲気をつくり、学習成果にも大きな影響を与えます。

学力は一人で伸ばすものですが、学ぶ環境はみんなでつくるものです。授業中に集中して学ぶこと、仲間の発言を大切にすること、分からないことを教え合うことは、自分のためだけでなく、クラス全体の学力向上にもつながります。授業を大切にすることは、自分の学習を大切にすることであり、同時に仲間の学習を大切にすることでもあります。受験やテストは個人戦であると同時に団体戦です。学習に向かう前向きな雰囲気は、一人ひとりのやる気や成果に大きな影響を与えます。定期テストまであと2週間。まずは授業を大切にすることから始めましょう。そして「みんなで頑張ろう」と思えるクラスや授業を、自分たちの手で創っていきましょう。そんな日々の積み重ねが、皆さん一人ひとりの成長と目標達成につながるはずです。

なぜ「道」がつくのだろう？

明日の華道体験に関連して、日本の伝統文化には「華道」「茶道」「書道」、また「柔道」「剣道」「弓道」など、「道（どう）」がつくものがたくさんあります。この「道」は、単に技術や知識を身に付けるためのものではなく、人としての生き方や心の成長を目指す学びの道という意味があります。

例えば、華道は花を美しく生ける技術を学ぶだけではありません。花や自然を大切にする心、相手を思いやる心、落ち着いて物事に向き合う姿勢を育てます。茶道はおもてなしの心を、書道は集中力や丁寧さを、柔道や剣道は礼儀や相手を尊重する心を大切にしています。

つまり、「道」がつくものは、「上手になること」がゴールではありません。その活動を通して、自分自身を成長させ、人としてより良く生きることを目指しているのです。勉強や部活動にも同じことが言えるかもしれません。点数を上げることや試合に勝つことは大切ですが、それ以上に、努力を続けること、仲間と協力すること、困難に挑戦することなどを通して人は成長します。結果だけでなく、その過程を大切にする考え方は、日本の「道」の文化にも通じています。

明日の華道体験でも、「きれいに生けなければならない」と考える必要はありません。花と向き合い、自分なりに工夫し、集中して取り組むことそのものが大切です。ぜひ華道という「道」を通して、日本の文化や先人たちの知恵、そして自分自身の心とも向き合ってみてください。

後期学級役員選出

後期学級役員の選出が終わり、新しい学級・学年づくりが本格的にスタートします。先日の生徒会役員選挙に続き、各クラスでも後期学級役員を決める場面がありました。一つの役員に複数の立候補者が出たり、投票によって選出したりするクラスも多く、七条中学校の皆さんの「クラスや学校をより良くしたい」という前向きな気持ちを強く感じることができました。

学級役員は、単に司会をしたり連絡をしたりするだけの役割ではありません。クラスの仲間のことを考え、より良い学級・学年・学校をつくるために行動するリーダーです。「どんなクラスならみんなが気持ちよく過ごせるだろう」「どんな雰囲気なら授業に集中できるだろう」「仲間同士が支え合える学級にするために何ができるだろう」と考え、アイデアを出し、行動に移していくことが大切です。

例えば、あいさつが自然に交わされる雰囲気をつくること、仲間の頑張りを認め合うこと、授業で発言しやすい空気をつくること、困っている人に声をかけることなど、できることはたくさんあります。そして、それは学級役員だけが行うものではありません。学級役員を中心に、クラス全員が協力することで、より良い学級や学校が生まれます。

後期は学年のまとめの時期でもあります。ぜひ学級役員の皆さんには、新しい発想と行動力でクラスを引っ張っていってほしいと思います。そして全校生徒の皆さんも、学級役員任せにするのではなく、共に考え、共に行動し、より良い七条中学校づくりに取り組んでいきましょう。皆さんの活躍を期待しています。